

志水得の想い出

あの時私は……

232

スペイン・カナリア諸島の日本人学校へ（上）

中標津小学校教頭

大井誠一郎さん（四七）



ラスパルマス日本人学校の全校生



大井さん宅で開かれた生徒の送別会



五十五年、根室管内から初めて日本人学校へ 水産業の盛んな島の生徒は商社の子弟

海外に住む日本人の子弟のため

の日本人学校は今や世界各国に八

十数校を数える。学校が増えだし

たのは、意外にも二三十数年で、

大井さんが十八年前に赴任したス

ペイン・ラスバルマス日本人学校

は十番目に古い歴史を持つている。

大井さんはその少し前、私費で

ヨーロッパへパックツアーに参加

したことがある。日本人学校の存

在すら知らなかつた頃で、「もつ

と見聞を広めたい」と日本人学校

への派遣を希望した。日本人学校

の数が少なかつたため、それまで

の派遣者は都道府県教委の指導主

事や大学付属小中の教員などに限

られたが、五十四年に初めて

根室管内にも募集があつたからだ。

道内からは四十数人が応募、結果

的に二十数人、根室管内からは三

人全員が派遣されることになつた。

直前に結婚し、新婚旅行から帰つ

たばかりのあわただしい中での発

令だった。

「海外へ行くかどうかわからない

ときの結婚ですから、家具も最小

住んでいるかといえば、漁業資源が豊富なのに他ならない。遠洋漁業の根拠地として栄え、三百人の日本人が住んでいた。

「私が赴任した当時、三十人の小

中学生がいて、ほとんどが大洋漁業や日魯など水産会社の子弟でした。ところがメインのマグロが獲れなくなりましてね。水産会社が撤退する動きが出始めたんです。

日本人学校もこれで終わりかと思つて、タコとイカが獲れ始めなんです。すると、買い付けのために今度は三井、三菱などの企業が輸入するタコの四十%は商社マンが入ってきて最悪の事態は免れました」

日本が輸入するタコの四十%はカナリア諸島からといふ。

諸島の経済は、漁業と農業を中心とした一次産業と、観光産業が成り立つており、現在の人口は約百六十万人。特に観光産業は年間

を通じて温暖な気候であることが

ラヨーラ・パ・各國のリゾート地としてホテルなどの宿泊施設やレスト

ランなどの観光施設が整備されて

いる。

北回帰線の少し北にあり、亜熱帶性気候に属するカナリア諸島は

四方を海に開まれ、複雑な要素が影響と合つて一年を通して月別の平均気温が十八度から二十二度という特殊な気候になつてゐる。

「夏と冬の違いは」というと、夕方の散歩のときにカーディガンをはおるかどうかくらいです」

「そのうえ、アフリカ大陸からシロコと呼ばれる熱風が吹けば、年に一

回、五十度近くまで気温があがることもあるよう、風向きによつて天気が変わり、島の南側や海岸近くの低地では雨量が乏しい。

諸島には人々の生活を豊かにする川がないため、その歴史は水不足との戦いの歴史でもあつた。グラ

ンカナリアだけでも二百以上の井戸があり、その深さは三百㍍に

も達しているが、それとて地下水が枯れることも多く、必要量を全部まかない切れない。

「二週間も断水が続くこともあります。さすがに陽気なスペイン人でも車に火をつけたり、建物に投石したりと小さな暴動を起こすことがあります。そうなると私が担当して

いるスクールバスの運行が大変、時間や経路の変更が出てきて、地理をよく知つていなければなりません」

（以下次号へ）